

授業科目	国際看護学				実務家教員担当科目	○					
単位	1	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	溝部 昌子										
授業概要	<p>人々の健康状態や健康を守る行動を形成している文化的背景について理解し、異なる文化背景を持つ人々を看護の対象とするときに必要な知識、理論、課題への取り組み方法について学ぶ。日本国内、海外を問わず、多文化社会において普遍的に求められる看護師のカルチュラル・コンピテンスを醸成する。</p> <p>以上のことについて、実務家教員として臨床での実務経験を有する教員が教授する。</p>										
授業形態	講義	授業方法	グループディスカッション、プレゼンテーション、オンデマンド授業								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>文化背景の異なる人々を看護の対象としたとき、健康に影響を与えている生物学的要因、生活習慣、宗教的意義、気候風土、価値観、民間療法などに気付くことができる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護の対象を説明できる (DP1-2)</li> <li>2. 世界の健康課題について列挙できる (DP1-1, 1-2)</li> <li>3. 国際保健医療協力活動について理解できる (DP1-1)</li> <li>4. 健康に影響を与える文化、気候、文化、食事を例示できる (DP1-2)</li> <li>5. レイニンガー看護論サンライズモデルに含まれる要素について説明できる (DP1-2)</li> <li>6. 患者の文化的安全を守る患者サービスを例示できる (DP1-2, 3-1)</li> <li>7. 言語的障壁が医療や健康に与える影響を説明できる (DP1-2, 3-1)</li> <li>8. 多文化共生社会において外国人と共に働く際の課題を検討できる (DP3-1)</li> </ol>										
理想的レベル	<p>多様な文化的背景を持つ人々を看護の対象としたとき、健康を守ることに関連した対象の文化的背景についてアセスメントし、文化の違いを強みにした看護方法を検討し、様々な資源を利用した看護に貢献できる</p>										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合 (数値)				備考						
試験											
小テスト											
レポート	50%										
発表 (口頭、プレゼンテーション)	10%										
レポート外の提出物	40%										
その他											
カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU21404J
学習課題 (予習・復習)										1回の学習目安 (時間)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義で示された、情報、書籍、Web サイト、資料について、自ら情報収集する</li> <li>・ 関連する情報、様々な立場の人の意見を知り、自らの考えをまとめる</li> </ul>										4	
授業計画											
第 1 回	1. 国際看護の対象、世界の健康課題										

	序章、第1章、第2章 世界の保健・医療・福祉制度と課題、看護における国際化、在日外国人の健康課題 担当：溝部昌子
第2回	2. 国際機関と国際協力活動 第3章、第5章、第6章 政府開発援助 ODA、JICA、国際看護活動 担当：外部講師
第3回	3 異文化看護、文化安全を守る患者サービス 第4章 レイニンガー看護論、Compinha-Bacote と Fitzgerald のモデル、Purnell のモデル、文化人類学的視点 担当：溝部昌子
第4回	4. 海外での看護 第5章 看護師の資格制度 担当：外部講師
第5回	5. 文化背景の異なる対象への看護 第7章 JMIP 病院認証制度、CLAS 病院看護における困りごと 担当：溝部昌子
第6回	6. 医療における差別 医療較差、健康格差、様々な差別 担当：溝部昌子
第7回	7. 文化多様性① 映画「BABEL（バベル）」にみる文化多様性 担当：溝部昌子
第8回	8. 文化多様性② 映画「BABEL（バベル）」にみる文化多様性 コミュニケーション、宗教 ディスカッション、グラレコ制作
テキスト	・メヂカルフレンド社 看護の統合と実践③国際看護学
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済産業省：アウトバウンドに関する取組 医療国際展開カントリーレポート</li> <li>・マデリン・M・レイニンガー原著：レイニンガー看護論、医学書院、1995</li> <li>・経済産業省：病院のための外国人患者受け入れ参考書 2014</li> <li>・厚生労働省：外国人患者の受入れのための医療機関向けマニュアル（第4.0版） 2019</li> <li>・CLAS Standards</li> <li>・Office of Minority Health U.S. Department of Health and Human Services: TEACHING CULTURAL COMPETENCE IN HEALTH CARE. A REVIEW OF CURRENT CONCEPTS, POLICIES AND PRACTICES, 2002</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Office of Minority Health U.S. Department of Health and Human Services: Culturally Competent Nursing Care: A Cornerstone of Care 2016</li> <li>・ 医療×「やさしい日本語」研究会</li> </ul>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>1. 振り返りフォーム 5回 40%</p> <p>2. 課題提出 3回 50%</p> <p>それぞれ A-B-C3 段階評価を付し返却します  (A: 情報検索、複数の立場や観点から、自身の意見を論述している B: 情報検索あるいは意見の論述に不足がある C: 不足が多い)</p>
<p>学生へのメッセージ・コメント</p>	<p>基礎看護学、看護理論など、看護の対象を理解するための方法、理論を基盤とし、人々の健康に影響を与えている生物医学的背景、地理気候、法律や制度、経済、政治、文化などの様々な要因に関心、興味、視野をもち吸収し、看護に関連づけてしなやかに思考する開放性が求められます</p> <p>日本国内にも外国につながりのある人々が暮らしています。看護の対象として接する際に必要な知識・取り組み方を学びます。海外に興味がある方にもそうでない方にも、未来を生きる大学生が履修すべき科目の一つとして勧めます。</p>

